

2014年秋 消費者の暮らし向きに関するアンケート 調査結果 (サマリー)

消費税増税直後に比べ、「暮らし向き」は持ち直すも「収入」は増えない！(図表1～3)

公益社団法人ふくい・暮らしの研究所の標記アンケート(2014年9月実施、有効回答数969)によると、前回調査(2014年4月)に比べ今後半年間は、「収入」が増えるとは見ておらず、「支出」を抑える意識が強くなっています。「暮らし向き」は持ち直しているものの、円安の影響も加わって今後さらに節約志向・低価格志向が強まりそうです。消費税増税は延期されましたが社会福祉政策の充実は困難になり、既に決定している年金の減額に加え、配偶者控除の廃止の可能性もあり、今後さらに消費者を取り巻く環境は厳しさが増すと予想されます。

- ★暮らし向きに関する設問項目では、消費税増税直後の今春調査と比べると、「収入」があまり増えず、「支出」を抑える意識が強くなっていますが、「暮らし向き」は少し持ち直しています。また、全国調査と比較すると「収入」は変わっていませんが、「暮らし向き」は良くなっています。
- ★旅行に関する設問項目では、平均予算が7.4万円(今春調査は8.3万円)と減っており、さらにはっきりと【安・近・短】傾向が現れており、「支出」を抑える傾向を裏付けています。
- ★貯蓄に関する設問項目では、平均で818万円(今春調査では820万円)と貯蓄額の変化はありません。
- ★冬のボーナスに関する設問項目でも、「増えそうだ」の比率が今春調査の8.9%から7.6%に減っており、ここでも「収入」は増えないと考えていることが示されています。
- ★お歳暮に関する設問項目では、平均予算が5.7千円(今春調査は5.4千円)とほとんど変わっていません。
- ★消費税増税に関する設問項目では、給与が消費税増税後「増えた」と答えた方はわずか5.1%となっています。また、買物が減った理由は「価格が上がった」と答えた方が8割弱を占め、今後の商品購入について「ぜいたく品は買わない」や「節約に努める」と答えた方が多く、今後さらに節約志向・低価格志向が強まると思われます。

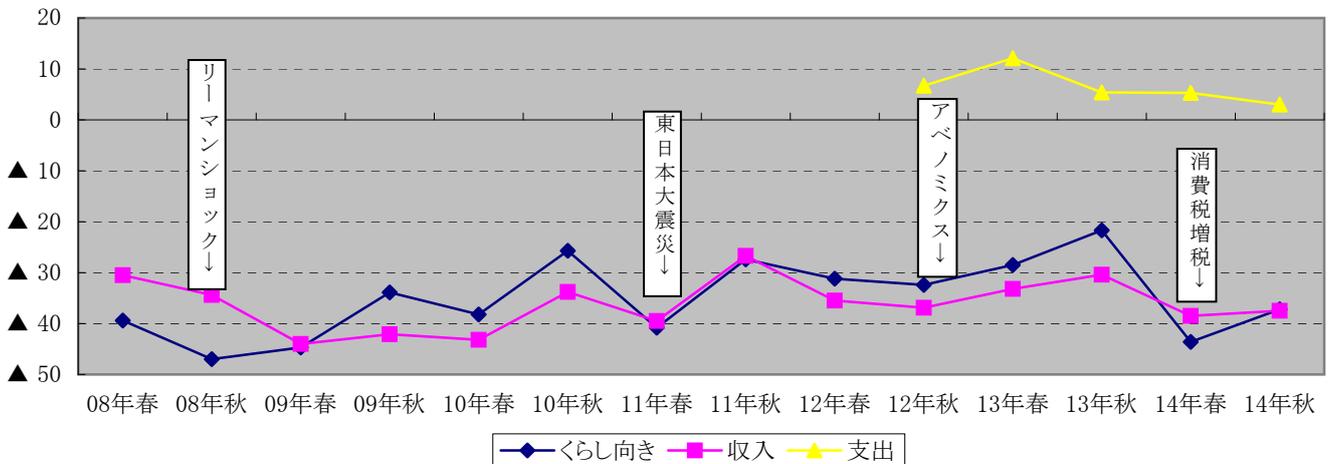
図表1 今後半年間の暮らし向き、収入、支出、貯蓄(比率)

	暮らし向き		収入		支出		貯蓄	
	14年春	14年秋	14年春	14年秋	14年春	14年秋	14年春	14年秋
良くなる(増える)	0.3%	0.8%	0.5%	0.4%	9.3%	7.2%	0.2%	0.7%
やや良くなる(やや増える)	2.7%	2.7%	3.7%	4.1%	28.0%	24.4%	2.3%	3.1%
変わらない	49.4%	54.7%	52.0%	52.3%	28.9%	38.1%	32.2%	38.5%
やや悪くなる(やや減る)	36.2%	32.6%	27.9%	30.3%	20.7%	20.8%	33.6%	31.2%
悪くなる(減る)	9.7%	7.4%	14.0%	11.0%	11.3%	7.7%	29.7%	24.9%
無回答	1.6%	1.8%	2.0%	1.8%	1.7%	1.8%	2.0%	1.7%
D. I. 値	▲ 43.6	▲ 37.2	▲ 38.5	▲ 37.5	5.3	3.0	▲ 62.0	▲ 53.1

図表2 暮らし向き、収入(比率の全国比較) ※全国比率は、内閣府公示の14年10月度「消費者の意識調査」より抜粋

	暮らし向き			収入		
	福井	全国	差異	福井	全国	差異
良くなる(増える)	0.8%	0.3%	0.5%	0.4%	0.3%	0.1%
やや良くなる(やや増える)	2.7%	2.8%	-0.1%	4.1%	3.5%	0.6%
変わらない	54.7%	47.7%	7.0%	52.3%	54.0%	-1.7%
やや悪くなる(やや減る)	32.6%	36.6%	-4.0%	30.3%	28.9%	1.4%
悪くなる(減る)	7.4%	12.6%	-5.2%	11.0%	13.3%	-2.3%
無回答	1.8%		1.8%	1.8%		1.8%
D. I. 値	▲ 37.2	▲ 46.1	8.9	▲ 37.5	▲ 38.4	0.9

図表3 今後半年間の暮らし向き、収入のD. I. 値経年推移



●旅行先は国内近距離が増加し、旅費平均予算が低下(図表4~6)

旅行の予定が「ない」と答えた方は今春より増えました。また、旅行先も「国内遠距離」や「海外遠距離」が減り、「国内近距離」が過半数になりました。旅費の平均予算も5万円以上が減り「1~5万円」が4割弱と【安・近・短】の傾向にあります。

●貯蓄額はあまり変わらず、貯蓄の目的では「教育資金」や「不時の災害に備えて」が減少(図表7、8)

●ボーナス予想額は低下、購入品ベスト3は「子供服・ベビー服」「婦人服・洋品」「旅費」(図表9、10)

●お歳暮を贈る方は約半数、贈答先は親戚や知人・友人、と予算も含めてこの間の傾向は変わらず(図表11~14)

贈答予定商品、1位「ビール」、2位「ハム」「和洋菓子詰合せ」と例年と変わっていません。

もらって嬉しいもの、1位「商品券・ギフト券」、2位「洗剤」、3位「ビール」で、回答者の9割が「商品券・ギフト券」。

もらって困るもの、1位「日本酒・地酒」、2位「焼酎」、3位「生花」で、他に「へしこ」など。

●収入が「減った」方が増え、買物を控える(買物が減った)方も合わせて約6割とやや増加!(図表15~17)

収入が「減った」方が約1/3を占め、消費税増税の中での収入減が消費者マインドの低下を招いています。

買物を控える(減った)理由は「価格が上がった」が8割弱を占めており、この背景に円安等によるガソリン・食料品等生活必需品の価格上昇や消費税増税による感覚的な割高感が影響していると思われます。

●今後の購入姿勢は、より節約志向・低価格志向が強まり、消費税再増税は約半数が反対!(図表18、19)

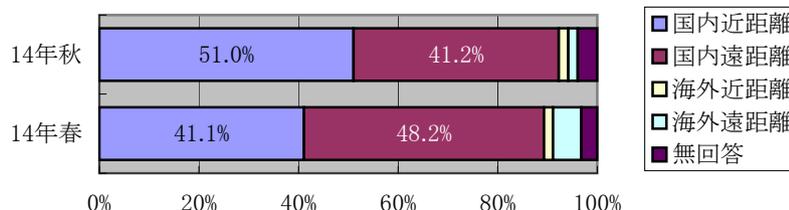
今後の商品購入の姿勢は、「これまで通り商品を購入するが、ぜいたく品は買わないようにする」や「節約に努め、全体的に支出を抑えるようにする」「同じ商品でも、より安く経済的な商品を選ぶようにする」が多くなっています。

消費税再増税について、前回の選択肢「目的や軽減税が明確にならない限り引き上げるべきではない」を省いたため単純には比較できませんが、「これ以上は引き上げるべきではない」が過半数を占めています。

図表4 旅行の予定(比率)

	14年春	14年秋
ある	32.4%	31.8%
ない	44.6%	48.8%
未定	21.9%	18.1%
無回答	1.2%	1.3%

図表5 旅行先(比率)



図表6 旅費予算(比率)

	14年春	14年秋
1万円未満	3.2%	3.2%
1~5万円未満	27.1%	37.3%
5~10万円未満	35.0%	31.8%
10万円以上	32.1%	26.9%
無回答	2.5%	0.6%
平均(万円)	8.3	7.4

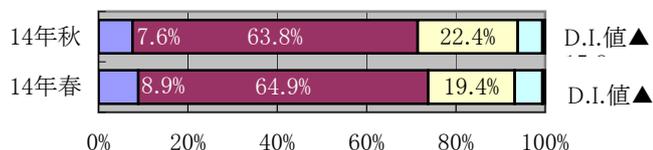
図表7 現在の貯蓄額(比率)

	14年春	14年秋
100万円未満	12.6%	14.4%
~500万円未満	35.6%	29.6%
~1千万円未満	17.0%	19.1%
~2千万円未満	10.7%	11.2%
2千万円以上	11.0%	9.9%
分らない	10.2%	11.8%
無回答	2.9%	4.0%
平均(万円)	820	818

図表8 貯蓄の目的(複数回答)(比率)

	14年春	14年秋
不時の災害に備えて	54.0%	51.4%
耐久消費財購入のため	26.4%	27.7%
教育資金	38.1%	33.4%
結婚資金	7.6%	6.0%
旅行、レジャー等のため	19.2%	20.1%
老後の生活のため	67.8%	67.3%
土地、住宅資金	11.5%	10.6%
その他	2.2%	3.1%
無回答	0.7%	0.4%

図表9 ボーナス予想額(比率)



図表10 ボーナスで購入予定品ベスト5

順位	品名	比率
1位	子供服・ベビー服	20.1%
1位	婦人服・洋品	20.1%
3位	旅費	16.0%
4位	紳士服・洋品	14.0%
5位	おもちゃ・ゲーム機	4.7%

図表11 お歳暮(お中元)について(比率)

	14年春	14年秋
贈る	47.6%	50.7%
贈らない	41.2%	40.1%
未定	9.4%	6.9%
無回答	1.9%	2.3%

図表12 贈答先(複数回答)(比率)

	14年春	14年秋
親戚	78.8%	77.4%
知人・友人	20.7%	21.8%
職場の上司	7.8%	7.9%
学校の先生	1.0%	1.2%
地域の方	4.9%	9.2%
その他	15.8%	14.9%
無回答	0.7%	0.6%

図表13 予算(1箇所当り平均)(比率)

	14年春	14年秋
3千円未満	10.2%	9.0%
3千~5千円	62.0%	61.7%
5千~1万円	21.9%	21.0%
1万~1万5千円	1.9%	3.5%
1万5千~2万円	1.0%	1.6%
2万円以上	1.7%	2.0%
無回答	1.2%	1.2%
平均(千円)	5.4	5.7

図表14 贈答予定商品、もらって嬉しいもの、困るものベスト5

	贈答予定商品		もらって嬉しいもの		もらって困るもの	
	品名	比率	品名	比率	品名	比率
1位	ビール	16.5%	商品券・ギフト券	90.6%	日本酒・地酒	35.7%
2位	ハム	14.3%	洗剤	46.7%	焼酎	34.5%
3位	和洋菓子詰合せ	14.3%	ビール	36.5%	生花	30.0%
4位	日本酒・地酒	12.9%	米	33.9%	ギフトカタログ	25.3%
5位	農産加工品	8.4%	ギフトカタログ	31.0%	へしこ	24.9%

図表15 消費税増税分の収入増は？

	14年春	14年秋
3%以上増えた	1.4%	1.9%
3%未満であるが増えた	2.7%	3.2%
変わらない	71.3%	59.4%
減った	22.5%	33.6%
無回答	2.2%	1.9%

図表16 消費税増税で購入姿勢の変化は？

	14年春	14年秋
特に変わっていない	40.2%	38.7%
消費税を意識して、買物を控えるようになった	39.7%	36.5%
消費税は意識していないが、買物は減った	17.2%	23.3%
無回答	2.9%	1.4%

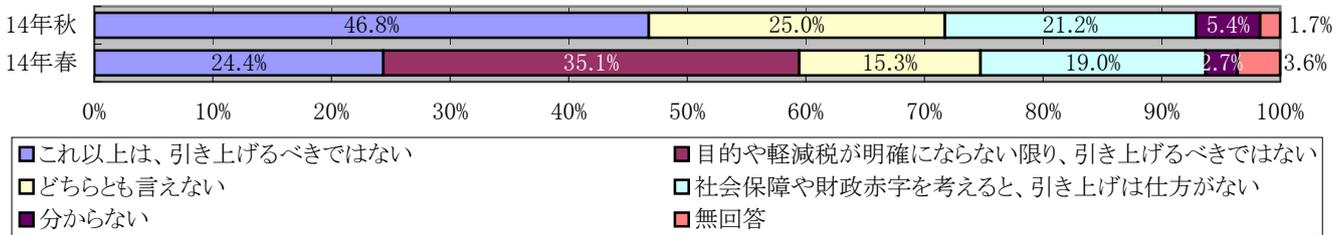
図表17 買物を控える、減った理由は？(複数回答)

	14年秋
価格が上がった	79.0%
商品の値ごろ感が分かりづらくなった	34.5%
価格表示が分かりづらくなった	36.9%
増税前に買い物をし過ぎた	2.6%
お釣りが面倒になった	2.6%
その他	5.0%
無回答	1.7%

図表18 今後、商品の購入は？(複数回答)

	14年春	14年秋
あまり気にせず、これまで通り商品を購入する	14.7%	9.3%
これまで通り商品を購入するが、ぜいたく品は買わないようにする	48.6%	55.6%
節約に努め、全体的に支出を抑えるようにする	39.9%	43.7%
同じ商品でも、より安く経済的な商品を選ぶようにする	27.7%	32.0%
食費等、切り詰められるものは切り詰め、質素な生活を送るようにする	11.6%	19.4%
商品の購入に優先順位を付け、買えるものだけしか買わない	21.2%	29.4%
価値のある商品は、多少高くても買う	18.2%	18.2%
その他	1.9%	0.9%
無回答	1.2%	1.4%

図表19 来年の消費税増税について



●生活や食等に対する考え方は、「自然の脅威の前では人の力には限界がありどうしようもない」「多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する」等が高点数の一方で、「家族みんなが楽しむためによく外食する」「安全性を確保した上で問題がなければ原発の再稼働は仕方がない」等が50点以下となっています。(図表20)

図表20 生活や食、環境、福祉に対する考え方(平均点:100点満点)

項目	14年春	14年秋	差異	
ア)生活・くらし	家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている	74.7	74.5	▲0.2
	自分で自由に使える時間は、家で過ごすのが好きなほうだ	63.0	63.3	0.3
	余暇は、家族サービスや旅行で過ごすことにしている	52.2	52.5	0.3
	家族みんなが楽しむために、よく外食する	43.5	43.9	0.4
	家計にゆとりがあった場合、消費するよりも貯金しておく	67.1	65.2	▲1.9
イ)食の安全・農業問題	多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する	73.1	75.8	▲2.7
	家計のため低価格の食品を探して購入する	56.2	56.1	▲0.1
	多少値段が高くても地産地消を大切にする	62.3	63.7	1.4
	輸入農産物は敬遠する	69.3	71.4	2.1
	風評被害が心配だが、放射線量の高い産地の食品は手が出ない	64.9	65.3	0.4
ウ)災害防止、環境問題	自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない	79.0	79.1	0.1
	国は、災害防止のための補強工事や情報提供を、もっと行うべきだ	76.7	77.8	1.1
	我が家の災害に対する備えは十分である	48.2	46.9	▲1.3
	少々不便でも、積極的に省エネに協力したい	64.9	65.9	1.0
	災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う	51.9	50.9	▲1.0
エ)エネルギー政策	経済性を重視した、安定供給が可能なエネルギー政策を取るべきだ	63.9	63.0	▲0.9
	生活が多少不便でも、安全性重視のリスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ	67.7	69.4	1.7
	太陽光や風力、水力等、再生可能な自然エネルギーを主力とするべきだ	69.8	70.0	0.2
	安全性を確保した上で、問題がなければ原発の再稼働は仕方がない	51.0	47.4	▲3.6
	今の電気料金は、高いと思う	69.0	65.8	▲3.2
オ)福祉、税金	将来の社会福祉政策の充実のために、税負担が重くなっても仕方がない	55.1	51.8	▲3.3
	国は、収入による格差を減らすよう、公平な税負担を求めるべきだ	69.9	68.9	▲1.0
	これ以上の税負担は耐えられない	73.8	74.7	0.9
	もっと、高齢化対策(年金制度等)の充実を図る必要がある	71.4	71.5	0.1
	もっと、少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある	72.2	73.5	1.3
カ)地域	自治会、社会奉仕、避難訓練等地域の行事には、積極的に参加していきたい	65.8	65.5	▲0.3
	地域の公民館や集会場、公園を、積極的に利用していきたい	62.9	62.5	▲0.4
	地域の子供会や青年会、婦人会、老人会等に参加していきたい	57.8	57.7	▲0.1
	自分の地域を良くするために、もっと、地域づくりやまちづくりに参加していきたい	57.7	58.2	0.5
	自治会やPTA等、地域の役員はしたくない	62.2	60.1	▲2.1

※平均点が75点以上や50点未満、および差異が大きいものに背景色を付けました。